

## 令和7年度 第2回川崎市社会教育委員会多摩市民館専門部会摘録

日 時 令和7年9月9日（火）午後2時～4時

場 所 多摩市民館4階 第5会議室

出席委員 高梨宏子部会長、山本和恵副部会長、栃木達也委員、伊藤千津子委員、三品勉委員、澤典子委員

事務局 坂尾康章館長、篠原和則課長補佐、星野弘明担当係長

傍聴者 5名

### 1 開会（星野係長）

### 2 部会長あいさつ

### 3 館長あいさつ

### 4 令和7年度第1回会議録について

資料2に基づき星野係長から説明し承認された。特に質疑はなし。

### 5 議題

#### (1) 多摩市民館における各種事業について

##### ア 施設の管理運営について

資料3に基づき星野係長から説明

##### (三品委員)

クールシェアルームはリピーターが多いのか。利用者は増えているのか。

##### (星野担当係長)

利用実績については、過去の実績を含め資料3に掲載しており、昨年度と比較すると人数をカウントしている全ての時間帯において利用者が増えている状況である。記録にはとっていないが、何名かの方は繰り返し御利用いただいている。

##### イ 社会教育振興事業について

資料4に基づき篠原課長補佐から説明

#### (2) 調査・審議事項について

篠原課長補佐から、「市民に行き届く広報」に関して、前回までの意見を踏まえ事務局で考察した内容（資料5「(3) 広報についての考察」）について説明。

##### (三品委員)

資料のまとめ方が良い。考察に「そもそもどのように人を集めるか」とあるが、「どのような人を集めるか」ということも重要。市が政策目標を達成するために実施すべき取組と、市民の声に応じて実施する取組があり、両方を考えなくてはならない。市が何を目指しているのか、例えばスポーツの川崎とか文化の川崎とか、その目指すものがあって、そのためにみんなにこれを知ってもらいたい、関心を持ってもらいたいということが出てくる。何を目指しているのかを整理する必要がある。広報の方法論も重要だが、それと併せて考えていく必要があると思うので、資料のまとめ方はよく分かった。

(篠原課長補佐)

やるべきこととやりたいことは分けて考えていかななくてはならないということは仰るとおりであり、委員の御意見はよく理解できた。やるべきことという点において、市民館では当然、市の取組を伝えていくという面があるが、市民館の社会教育においては、それと併せて自治や平和、教養などを学ぶ機会であったり、そもそも市の考え方がこれで良いのか、ということも考える機会を提供していくことがやるべきことと言える。そのため、講座の企画等を考える上では、例えばスポーツのまちを浸透させることを目的として実施する、などということはまだ意識していない。

(三品委員)

もう1点、先程社会教育振興事業の説明の中でもあったが、多摩市民館がやることだから多摩区内で実施しなくてはならないということではなく、他の地域と連携し、その地域に出向いて実施したり、その地域の人と一緒にやったりといった考え方は重要だと思う。

(伊藤委員)

一番重要なことは人とのつながり、関わりをもっと確実なものにしていくこと。市民館は色々な行事等があり、たまたま近くの人がこれかと思って参加できるものもある。それがその人にとって良いものであれば関わりをつなげていけると思うし、そういうものがあること自体が地域の活性化になる。そういうものがどんどん無くなってきている。市の目的でなく、それぞれの人の人としての目的はどこに行っても同じだと思う。たま学習サークル連絡会に長年携わっているが、連絡会を作った目的は、人との交流・親睦である。資料にあるマーケティングの考え方ということもあると思うが、企業が行うカルチャーセンターとは違うので、人との関わりということが一番大切なことだと思う。

(栃木委員)

市民館だよりを拝見すると、見やすく色々な情報が載っている。それぞれの取組がいつからやっている催しなのか、新規のものなのか、毎年やっていて来年も実施するのかなど分るとわくわくすると感じた。

また、先程市の方針という話が出たが、私たちも川崎市立の学校なので市の方針に沿ってやっているが、広報については、例えば学校だよりでは、市のことというよりは、まちのことや学校の特色を大事にしているところがある。多摩区と川崎区の方では、子どもの感覚では遠さを感じる。川崎のシビックプライドは持たなくてはならないが、やはり、まちのことが中心となってしまうので、難しさを感じた。

学校は市民館と違い、広報の対象である保護者や対象となるまちの範囲が決まっていて、限られた人に広報している。それでも例えば、学校報告会や説明会を以前はPTA総会とセットで体育館で行っていて、こちらから伝えようとする気持ちが少し弱く20～30人程度しか集まらない状況であったが、それではダメだと思い、人が集まる場所に出向いてとにかく伝えたいということを優先し、懇談会などの機会にオンラインで校長室と各教室をつなぐ形をとったところ、伝わるようになったという実感がある。学校によってはYouTubeで限定公開をして校長や教員から発信しているところもある。学校のことでも色々なツールを使わないと伝わらないと感じている。今までにないことを考えようという話が校長会でも出ている。働き方改革もありあまり無理はできないが、より良く効率的に人に伝えなければいけないということに取り組み始めている。市民館は学校と違い不特定多数の人に広報していかななくてはならない難しさがあると改めて感じた。

(澤委員)

自分はPTAをしているが、子どもが卒業しPTAの活動が終わった段階で、親としての次のステップはどこに行くのかとなったときに、横のつながりで町内会・自治会活動に加わるということもあるが、市民館では縦のつながりを意識し、例えば赤ちゃんサークルを立ち上げた人に、幼稚園に行く頃にはその方たち向けの講座がここにあります、小学校に上がる時には、働く世代が定年を迎えたときには、こういうものがありますよ、といった少し先に続いていくことを見せながら広報していくことが良いと思った。それぞれの講座を単発で知らせるだけでなく、市民館に行けば先の未来も少し見える、色々な世代向けに講座等を開催していることをもう少し明確にしてもらえるとつながっていくと思う。

(三品委員)

今の御意見は重要なことだと思う。色々な講座があるがどのようにつながっているのか、自分が前から言ってきたことである。なぜこの講座を行っているのか、何を伝えたいのか整理が必要である。

(澤委員)

市民館では市民がやりたいことを受け止めて講座を開催しており、それぞれの世代がどういうことをしたいのかを知っているので、縦のつながりをつくることができるのは市民館だけだと思う。皆さんが思いがあって持ってきたものをつなげる場所、人とのつながりが作れる場所、横だけでなく縦のつながりも作れる場所であることを広報してもらえればもっと広がっていくと思う。

(三品委員)

これまで、それぞれの講座をどういう目的で行っているのか、市のどういう方針の下に行われているのか、体系的に整理することが必要だと言ってきた。それは事業を評価するときにも必要になる。概念的なことだけでは評価のしようがない。分かりやすいのは数値で表すことであり、事業レベルであれば数値化しやすくなる。例えばイベントに何人参加したかなど。それが上のレベルの評価につながっていく。事業を体系的に整理し、どこがどのようにつながっているかをぜひ明確にしていきたい。

(篠原課長補佐)

資料5で言うと、「Product」単体で広報するというのではなく、例えば、青少年教室・成人教室・シニアの社会参加支援事業・高齢者セミナーといった世代別学習の枠を整えているが、それを効果的に「Promotion」するためには工夫が必要ということ。「Product」単体の広報を線にしていけば、もっと人が集まるのではないかということと思う。それは大事な御指摘と受け止めている。

評価に関する御意見は、資料5「(4) 指定管理者制度導入後の取組推進のイメージ」にも関わってくるので、後ほど説明したい。

(山本副部長)

シニアの社会参加支援事業のチラシをあえてホームページに掲載しなかったということだが、シニアの方はQRコードなどがあると躊躇してしまうところもあるので、なるほどと思った。チラシの中でも目玉となること、楽しいことで目を引き付けるのは良いアイデアである。活動が長くなると目が曇ってしまい、チラシも前回と同じでいいか、となってしまうこともあるが、今日の広報についての考察を聞いて、自分の活動にも照らし合わせて考えてみたいと思った。

「つながり」という話も出たが、活動をしていると、どうやったらつながれるのか、一緒に活動できるのかと思うことがある。地域教育会議の教育を語るつどいでは、基調講演で話を聞くだけでなくグループに分かれて話をする時間がある。その中では参加者同士で色々な思いを共有できる楽しさがあり、連絡先

を交換できることがあったり、イベントなどに一緒に参加したり、という経験もあった。市民館でも昨年度にヤングケアラーに関する講座があったが、そこでもグループに分かれて話をしていく中で地域教育会議にも参加してくれようになった人もいた。講座のプログラムでただ話を聞くだけでなく、グループに分かれて話をできる機会があると、特に連続講座の場合は顔見知りになり、つながっていくことができることを体験したので、つながりづくりのための一つのアイデアだと思った。

(高梨部会長)

資料5「(3) 広報についての考察」で、「そもそもどのように人を集めるか」ということの大きな背景をもう少し丁寧に説明してもらえると良かった。単に人が集まれば社会教育の講座として成功ということではなく、そこに来た人たちが学んで、その人たち自身の学習につながり、地域もより豊かになっていく、という大きな背景の説明はあった方が良い。その上でテクニックを考えていくもの。社会教育とは異なる分野のマーケティングの考え方を取り入れたのは、これまで気づかなかった視点に光を当ててくれるものと思うが、報告書にまとめたりする際には社会教育への翻訳をしっかりとする必要がある。この内容だと顧客が学習者ということになるがそれは違うものだと思う。顧客だと商品・サービスを受け取る、それを消費することになるが、市民館に行く学習者は消費をする人たちではなく、学びを作っていく人たちもあるので、その点はかなり丁寧に翻訳した方が良いと思う。講座がいかにキャッチーであったかで評価されてしまうと、それこそカルチャーセンターと変わらなくなってしまう。

人に知ってもらって来てもらうという入口をどう作っていくか、という話をしようとしていると思うが、営利企業の場合は商品を買ってもらいお金を落としてもらえればよいが、社会教育の場合にはその先がある。入口の先の奥行、学習の深さという点が入っている方が社会教育の文脈には適しているので、長期的視点も取り入れた方が良いと思う。また、「市民に行き届く広報」というときの「市民」とは誰なのか。公的な教育機関なので、公共性にも関わってくる。高齢者や障害者、外国人など情報弱者への配慮の観点も必要である。

広報と似た意味で「PR」という言葉もあるが、これは「public relations」の略で、企業や組織が社会と良好な関係を築くこと、コミュニケーションの方法と考えられている。今回の話で言うと、学習者と市民館がどのように関係を作っていくか、コミュニケーションの方法として、どういう人に来てほしいかということを検討していく方が文脈的に合ってそうである。良好な関係を作って学習をより豊かにしていくという活動なのかと思った。

(篠原課長補佐)

資料をまとめる中で足りなかった視点について御指摘いただいたと思うので、改めて調べて次回の資料に反映していきたいと思う。

篠原課長補佐から、資料5「(4) 指定管理者制度導入後の取組推進のイメージ」について説明。

(篠原課長補佐)

評価については、先程、より数値化した評価をしていくべきという御意見もあったので、そのことを踏まえて今後の検討をしていきたい。また、各団体の活動について、どのように市民館として関わっていくか、ということもお示ししているので御理解いただきたい。

(三品委員)

資料に、今後の市民館運営とあるが、具体的にはいつ頃をイメージしているのか。

(篠原課長補佐)

「今後の市民館・図書館のあり方」において概ね10年後をイメージしている。

(三品委員)

今はインターネットやコンピュータの発展もものすごく速いが、それに対応できるのか。外国人も多くなったと感じるが、10年の間でも状況が大きく変わるのではないか。そうしたことに全て対応できるのかと思った。

(篠原課長補佐)

この考え方を策定したときから、劇的な変化までは無いと認識している。

(高梨部会長)

資料に「市民館は楽しい・ここに来るとためになる場所という評判を広めることに努め」とあり、理想的だと思うが、現実的には中々難しいことと感じた。市民館に来れば何かを学べて自分にとってプラスになるというくらいの感覚で来て、それを周りの友達にも教えたり、といったことなのかと思う。市民館にこれから来る人たちのことを考える必要もあるが、今市民館で既に活動をしている人たちの学習をより充実させていくことが実は最高の広報なのではないかと思う。今学習している人たちの組織づくりのサポートをしていくということもやらなくてはならないこと。そういったことを指定管理者と市がどのくらいバックアップをしていくのか、今活動している団体とどのように協働していくか、ということなのかと思う。

(三品委員)

身体障害者の方はどのくらいいて、その方達への対応はどのように捉えているのか。特別なプログラム等があるのか。

(篠原課長補佐)

行政として色々な取組をしているが、市民館ではそうしたプログラムは設けていない。

(三品委員)

割合がかなり多いのではないかと思うので、対応が必要かと感じた。

(高梨部会長)

人口の比率が大きく変わり子どもの人数も減っている。色々な社会の変化に柔軟に対応していけるような先を見据えた視点も入れながら意見をまとめていければと思う。

本日の御意見を踏まえ、次回は今期の調査審議の結果をどのようにまとめていくかも含め議論していきたいと思う。

## 6 その他

次のとおり次回以降の多摩市民館専門部会の日程を決定した。

第3回：令和7年12月12日（金）午後

第4回：令和8年2月22日（日）午後

## 7 閉会（山本副部会長）